

農業



令和7年8月号

会誌 No. 1733

目次

巻頭言

新たな基本計画について…………… 松尾 元 3

論壇

食料安全保障をめぐる国際的な議論と基本法改正…………… 中嶋 康博 4

農業・農村担い手問題研究会

第4回「農業・農村担い手問題研究会」の開催について…………… 6

地域セミナー 栃木

一次産業を活かした「楽しい」地域活性化・鹿屋トルネード… 福井 逸人 20
—もっと地域を巻き込もう—

食を楽しむ

ヤサイコトバに込めた心の栄養…………… 西川満希子 33
—祖母の台所から始まった、食と想いのかたち—

研究の最前線

日本の農林水産物・食品輸出の現状と課題…………… 本間 正義 34
—農林水産業と食品産業は輸出で活路を見いだせるか—

農業・農村の現場から

青森りんごの明日、再び…………… 山野 豊 44

世界の農業は今

フランスにおける日本酒の認知度と普及の可能性…………… 川本 美希 50

私の経営と志

宮崎県美郷町で複合経営…………… 木下 貴寛 56
—少量多品目の生産・加工・販売—

農家の気持ち

夢を諦めない！ 酪農もジェラートも…………… 興野 礼子 58

東京農業大学収穫祭から

常識を変えるミルク革命…………… 渡邊 歩美 59
—A2ミルクの現在とこれから—

農政情報…………… 63

大日本農会だより…………… 64

編集部から…………… 64

表紙写真説明：シリーズ農村の伝統祭事

北川崎の虫追い (埼玉県 越谷市)

北川崎の虫追いは、毎年7月24日の夕暮れを待って人々が鎮守の川崎神社に集まり、麦わらを束ねた大小さまざまな松明（たいまつ）に火を灯し、鉦（かね）や太鼓を交えた行列で「稲の虫ホーイホーイ」と叫びながら地区内の農道を行進するものです。稲につく害虫を地区の境まで追い払い、併せて豊作を祈念します。松明は北川崎自治会が主体となり、地域の公民館・小学校などが協力して作成し、当日には多数の小学生の参加もみられます。

市内の別地域の古文書には、1791（寛政3）年に天候不順で稲に虫がついたが、麦わらでつくった松明を燃やして耕地を回って歩いたところ豊作となったことが記されており、市域の虫追いはこの頃から始められた可能性があります。

都市化が進んだことや火災予防の理由などから他地域の虫追いが中止される中、現在でも続く虫追い行事として2008（平成20）年に埼玉県指定無形民俗文化財となっているほか、古の人々の祈りを今日まで届ける貴重な虫追いの風習を守り、次世代に受け継ぐ姿勢が評価され、2024（令和6）年度第44回伝統文化ポーラ賞（地域賞）を受賞しました。
（写真：越谷市 文：越谷市教育委員会生涯学習課 菟原 雄大）